

※JR横浜線 矢部駅下車 徒歩4分

**【生命・環境科学部 開講】【対面開催】環境問題の過去・現在・未来**

時代とともに環境問題は様変わりしてきました。過去から現在に至るまで、日本や世界がどのような変遷をたどり、今後どのような考え方が必要となるのか、最前線で分野を見つめてこられた先生方にご講演いただきます。

第1回：私達が日常生活で使用する化学物質は目的も種類も使用量も時代と共に変化（増加）してきました。代表的な物質である合成洗剤やパーソナルケア用品を例に、それぞれの時代における生活の質への市民の要望の変化と水質汚染の変遷を紐付けて振り返ります。そして、今後問題となってくると考えられる化学物質によって水環境にどのような影響が生じると予想されるのかを考えてみます。

第2回：産業革命期のロンドン、乱立する工場の煙突掃除人に陰嚢がんが報告されました。約100年前、ウサギの耳にコールタールを塗布して人工的にがんを作ったのは山極勝三郎博士です。1980年代にはディーゼル排ガス中に強力な発がん物質が見つかりました。そして現在も、大気中の微小粒子状物質、いわゆるPM2.5が問題となっています。第2回は、大気汚染物質、特に粒子状物質を中心に、発がん性や遺伝毒性のエピソードをご紹介します。

第3回：近年、地球温暖化によって猛暑日や豪雨が増えています。20世紀後半以降、地球温暖化の実態把握や予測は飛躍的に向上してきました。その変遷を振り返り、分かってきたこと、まだ分からないこと、人間社会への様々な影響などについて、最新の予測結果を交えてご紹介します。地球温暖化が進むにつれて、人間活動が地球の成り立ちを変えつつあるとも言われるようになってきました。これからの地球に想いを馳せながら、これからの環境問題について考えてみます。

**【受講料】** 1,300円**【受講料以外の費用】** なし**【時間・場所・定員】**

●18:00～19:00

●①②獣医学部棟1階119・120会議室

●③生命・環境科学部棟2階L205教室

●定員20名

**【その他】**

●車でのご来校はご遠慮ください。

**【講師】**

①環境科学科 特命教授 稲葉 一穂

②環境科学科 教授 遠藤 治

③環境科学科 特任助教 高田 久美子

**【開講日と内容】（全3回）**

①10月13日（金）身近な化学物質による水質汚染の変遷

②10月20日（金）大気汚染物質の発がん性～粒子状物質を中心に

③10月27日（金）地球温暖化～どこまで分かったか？これからどうなる？